

# 21世紀の公共図書館サービスと 司書の役割

—長野県内における公共図書館の実態調査から—

島 村 隆 夫

## I. 調査の目的

信州豊南短期大学は、平成12年度から男女共学とし、既設の国文科、英語科を改組して「言語コミュニケーション学科」を設置し、新たな体制でスタートした。本学創設当初から開設している「図書館司書養成課程」は、この新学科とは分野的にもより身近な関係にあり、司書養成課程を専攻する学生にとって情報関連科目などが容易に履修でき、巾広い分野について学べる環境となった。

現況は高度情報化社会、生涯学習化社会などといわれる多様化した時代である。図書館の役割は益々重要性を増し、そこに従事する司書は深く、巾広く、常に新しい知識と技術が要求されてきている。このため本学図書館司書養成課程では、今回の改組をきっかけに徹底して21世紀社会における図書館サービスに十分に対応できる資質の高い司書の養成を目指している。一方、本学は創設以来図書館司書資格習得者を多く社会に送り出しているが、実際にその資格を生かしている者は数少なく、就職等において現況は厳しいものがある。そこで、この度公共図書館の現時点での業務やサービスの実態を把握してみること、新世紀における図書館司書の役割について言及すること、および今後の授業の参考に資することを目的に、公共図書館サービスにおける実態調査を行うこととした。

## II. 調査の範囲・対象・方法

調査範囲と対象は、本学所在の最も身近な地域長野県内の公共図書館とし、

調査方法は、アンケート方式とした。

### Ⅲ. 調査の実施内容

実施期間：平成12年6月1日～30日

調査依頼館：長野県内公共図書館56館（別紙1）

設問内容：（別紙2）。

回収：38館（回収率：68%）

### Ⅳ. 集計内容

#### 1. 館種、サービス体制について

（1）回答館について、市立図書館32%（12館）、町村立図書館65%（25館）、法人（1館）。なお、県立図書館からは回答なし。

（2）分館が設置されている図書館は、回答館（38館）中39%（15館）。最も分館数の多い図書館は、塩尻市立図書館＜7分館＞。自動車図書館の設置は、26%（10館）。いずれも各館1車のみ。また、双方を設置している図書館は3館（8%）。

（3）市町村立図書館の平成11年度概況は（表一1）のとおりである。人口10万人都市の飯田市立中央図書館があらゆる点で目立っている。入館者（利用者）数では富士見町図書館が特に目立つ。また、貸出冊数の蔵書数に対する割合（貸出回転率）は、①富士見町図書館、②南箕輪町立図書館、③伊那市立図書館、④市立大町図書館の順で高い。貸出冊数は、無制限（4館）から2冊（2館）まで。一般的に5冊までが多い。貸出期日は、最大21日、最小12日、多くの館が2週間となっている。職員については、飯田市立中央図書館が正職・臨職合わせて22人で、うち19人が司書資格取得者を有している。また、臨職だけで賄っている図書館は3館。正職だけで賄っている図書館は1館のみ。

## 2. 図書館サービスの実態について

(1) 図書・逐次刊行物を除く資料で、多くの図書館が収集している資料は、録音・録画資料84%(32館)、紙芝居82%(31館)、点字資料29%(11館)、電子出版物17%(6館)。

(2) 資料の整備・目録作業の方法について、自館と外注の双方で実施している図書館が68%(26館)、すべて自館で実施している図書館は26%(10館)。

(3) 作業にどのような目録データベースが使用されているかについて、MARC 68%(26館)、総合目録ネットワーク5%(2館…下諏訪町立図、原村図)、OPAC 3%(1館)。なお、いずれも利用していないが21%(8館)。  
①使用されているMARCの種類については、TRCマーク55%(21館)、大阪屋マーク(OPL) 21%(8館)、他に自館マーク(1館…東部町図)、ローカル(1館…無記名図)がある。J-MARC、J-BISC、ニッパン・マークの使用はなし。  
②OPAC又は総合目録ネットワークを利用している図書館ではどのようなシステムを使用しているかについては、NEC-LICS-I/ADウインドウズロボ(青木村図)、NECハイパーロボ(塩尻市立図)、文化情報システム<(ORACL)>(ライブラリー82)、諏訪広域図書館情報ネットワーク<(LMO)>(下諏訪町立図、原村図)等があげられている。

(4) 資料の整備・目録作業を外注している場合の依頼先機関は、図書館流通センター<(TRC)>47%(18館)、大阪屋13%(5館)、他に地元書店組合を通じて大阪屋へ発注している(2館)、フィルム・ルックス(1館)があげられる。ニッパン、書店等はなし。

(5) カウンター業務のうち、貸出業務、レファレンス業務、読書案内を一緒におこなっている図書館は95%(36館)、他に分離している図書館(1館)、一

般カウンターでは別々であるが業務は一緒という図書館（1館）がある。

（6）各種サービスについて、①貸出文庫(母親文庫、巡回文庫等)を実施している図書館は58%（22館）、実施していない図書館42%（16館）。②児童サービス室を独自に設置している図書館（コーナーとして設置含む）は50%（19館）、設置していない50%（19館）。②-1その児童室にサービス員を配置している18%（7館）、配置していない66%（25館）。③障害者・高齢者サービスについて、実施している図書館は76%（29館）、実施していない23%（9館）である。③-1高齢者サービスで、バリアフリーや閲覧設備が配慮されている図書館は63%（24館）、配慮していない32%（12館）。③-2視聴覚資料室を設置している図書館26%（10館）、設置していない66%（25館）となっている。③-3その視聴覚資料室にどのような室名をつけられているかについて、視聴覚室（3館）、視聴覚資料室、対面朗読室、AVコーナー、スペース82、AVホール、視聴覚コーナー等がある。④アウトリーチ・サービスについて実施している図書館は、約32%（12館…伊那市立図、塩尻市立図、軽井沢町立図、戸倉町図、箕輪町図、高遠町図、中川村図、南箕輪村図、他）、実施していない68%（26館）。④-1アウトリーチ・サービスを実施している場合の対象者は、高齢者16%（6館）、心身障害者13%（5館）、その他児童、小学生、保育園、地域読書グループ等となっている。⑤外国人利用者へのサービスについて、実施している図書館24%（9館）、実施していない71%（27館）。⑤-1実施している図書館ではどのようなサービスが行われているかについて、洋書・資料等の収集24%（9館…伊那市立図、波田町図、富士見図、飯田市立図、軽井沢町立図、塩尻市立図、南箕輪村立図、下條村立図、無記名図）、利用案内〈英語・ポルトガル語版〉3%（1館…塩尻市立図）。⑥集会・行事活動について、実施している図書館82%（31館）、実施していない13%（5館）。⑥-1集会・行事活動を実施している場合、そのサービスの種類は何かについて、読み聞かせ89%（34館）、紙芝居82%（31館）、人形劇55%（21館）、ブックトーク47%（18館）、ストーリーテリング42%（16

館)、映画上映会39% (15館)、音楽鑑賞会8% (3館)、他に製本講習会、布絵本教室、クリスマスお話し会、歌、クリスマス (他と合同)、フリーマーケット、漬物フェア、機織りフェア、お楽しみ会 (草団子作りなど)、人形劇、手作り絵本などの講座、折り紙教室、子育て支援会・展示会、教養講座・夏休み講座、工作・遊び教室、腹話術、影絵、パネル・シアター、語り (ボランティアの協力を得て)、水引教室、カルタ会など。

(7) 利用者へのサービスの対応は現在の職員体制で十分であるかについて、十分であるという図書館21% (8館)、不十分である79% (30館)。

(8) ボランティアについて適用している図書館63% (24館)、適用していない37% (14館)。

(9) 各館が特徴とするサービスについては、大活字本の蔵書 (東部町図)。児童サービス<児童書の充実、各保育園、児童館へのお話し会等の出前サービス、保育園への図書館訪問> (岡谷市立図、池田町図他)。視覚障害者へのサービス<障害者用雑誌 (304誌) 収集、ボランティアの朗読による録音テープの作成・貸出> (伊那市立図、飯田市立図、岡谷市立図他)。身体障害者へのサービス<「福祉配本サービス」事業、図書館職員のカード式呼出し方式> (戸倉町立図、大町図他)。ボランティアによる語りのおもてなし (佐久市立図)。辞書類の充実 (軽井沢町立図)。ぬいぐるみ貸出 (富士見町図)。小・中学校への移動図書館車巡回<検討中> (池田町図)。星の町という方針に従い、星・宇宙に関する資料収集に努めている (臼田町立図)。広域ネットワーク・サービス (諏訪地域図、上田地域図)。童話作家を顕彰する記念館に併設した図書館としての特徴上、児童文学の紹介、レファレンス、母と子の読書運動に対するサービス、各文学サークルへのサービスを充実させていく (喬木村立椋鳩十記念図)。お話し会、折紙、紙粘土、版画、工作等の各種教室の開催。古雑誌、古

本のリサイクル。移動図書館による全域サービス。保育園、親子文庫への配本サービス。火～土曜日午後8時まで開館。夜間貸出の実施（毎週金曜日）。子どもの日・文化の日の開館。夏場（5～9月）の夜間開館（午後8時まで）。夏期無休。館内カード使用。リクエスト予約者への電話による連絡。巡回車によるお届け図書。郵便局に200冊ずつの図書を置いて貸出サービスをしてもらっている。誰もが集える機関として、利用者を促す雰囲気づくりなど。

### 3. 図書館協力について

（1）国立国会図書館（NDL）の図書館サービス・システムを利用しているかについて、利用している図書館55%（21館）、利用していない42%（16館）。①利用している場合どのようなサービスかについて、図書貸出制度39%（15館）、複写サービス34%（13館）、レファレンス・サービス31%（12館）、他に必要があれば全てについて協力するというのが1館あった。②NDLの図書館サービス・システムについて昨年度の各々の利用件数を記載いただいたところ、図書貸出制度の利用が伊那市立図（27件）、飯田市立図（13件）、富士見図（5件）、下條村立図（6件）。複写サービスが下條村立図（7件）。レファレンス・サービスが富士見町図（3件）、喬木村立椋鳩十記念図（2件）、軽井沢町立図（1件）、下條村立図（8件）。

（2）NACSISシステム（国立情報学研究所一前学術情報センター）への参加館はゼロである。

（3）集中目録作業システム（NACSIS-CATを除く）への参加については、参加していない図書館が97%（37館）、参加している図書館は1館（集中目録作業といえるかどうか？ TRCマークを利用しているが、TRCマークにないものについては上田地域図書館ネットワーク内で参加館が作成したものを共同利用—青木村立図）となっている。

(4) 他館(大学・学校図書館も含めて)との地域相互協力について、実施している図書館82%(31館)、実施していない18%(7館)。地域相互協力を実施している場合、どのような種類の協力かについて、相互貸借82%(31館)、図書館相互利用26%(10館)、総合目録21%(8館)、分担収集14%(6館)、分担保存16%(6館)となっている。図書館協力は70%(26館)実施しており、協力館数と館種については、規模は周辺地域と広域、及びネットワークによる協力を分けられる。周辺地域では公共図書館(県立、市町村立)、学校図書館、及び大学図書館のいずれかの複数館と協力し、協力館数は様々。特に学校図書館への協力が目立つ。また、県立図書館との協力は多数みられるが、大学図書館とは2館が協力。ネットワークは2地域(諏訪、上田)にみられる。他に、特定はしていない(大町図)、要請があればどこでも(檜川村図)がある。広域なものとして、伊那市立図書館の国立国会図書館、県立図書館17館、市町村立図書館27館、都府立図書館2館、大学図書館1館、学校図書館10館、他2施設との協力があげられる。大学・短大図書館との協力について何かご要望があればについて、大学図書館所蔵の図書を公共図書館に相互貸借希望。将来的にネットワークで繋がれば、特に近隣の豊南短期大学などと相互貸借ができるといい。インターネットで目録公開。相互貸借。大学図書館でしか所蔵のない資料を依頼するケースが多い。夏休みなど対応が多く、開館中に公共図書館と同レベルの開館を、などの要望があった。

#### 4. 高度情報化社会での図書館の対応

(1) コンピュータによる図書館業務システムで、①ネットワーク系を除く図書館業務システムを導入しているかについて、導入している図書館58%(22館…構築中1館<佐久市立図>含む)、導入していない42%(16館)。②導入している場合、どのようなシステムかについて、総合システム37%(14館)、検索システム21%(8館)、閲覧貸出システム13%(5館)、目録編纂システム5%

(2館)、その他 図書館管理システム—貸出・返却、検索、発注整理、統計があげられている。③使用しているシステムの名称、製造者名は、NEC LICS-R、NEC LICS N、NEC LICS-1/AD、NEC EX5800 (LICS-R)、リーブル・NEC、富士通ILIS-X10、LMO図書館管理 (KK) —システム イン ナカゴミなど。

(2) 電子出版物を利用しているかについて、①利用している図書館13% (5館)、利用していない84% (32館)。②利用している場合、その媒体はパッケージ系13% (5館)、③パッケージ系とオンライン系の双方を利用が1館となっている。パッケージ系の場合、どのような資料かについて、図書 (例えば辞書・名簿等) 13% (5館)、他に視聴覚資料、ゲーム (お絵書きなど)、TRCDなど。雑誌・新聞はなし。④オンライン系の場合、どのようなデータベースかについては、公共図書館の蔵書検索があげられている。

(3) インターネットを利用しているかについて、利用している図書館47% (18館)、利用していない50% (19館)。①利用している場合どのような業務に利用しているかについて、図書館案内16% (6館)、電子出版物の利用13% (5館)、OPACのアクセス11% (4館)、その他ホームページの閲覧サービス、出版物の情報を得るため、図書検索、レファレンス、事務用 (市役所庁内LAN経由)、開放端末・体験用、利用者に提供、出版物の検索、書誌データの受取り、一般開放等。②インターネット上ではどのようなホームページ、またはデータベースを使用しているかについて、そのURL (ホームページのアドレス)、データベース名をあげていただいたところ、

<http://www.echol.gr.jp/>

<http://www.avis.ne.jp/~saku-lib/index.html>

<http://www.libnet-suwa.gr.jp>

<http://www.nii.ac.jp/>

<http://www.ndl.go.jp/>



<http://www.city.shiojiri.nagano.jp/toshokan/index.html/>

などがあげられている。

(4) インターネットを利用してのサービスについて、今年度8月以降導入の予定(喬木村立椋鳩十記念図)。希望者に無料開放している。専門職員が必要と感じている等。

(5) 最近、電子図書館の構想が具体的に進められ、利用者がインターネットと共に直接利用できることで、利用者の中には近い将来図書館や司書は不要だといったショッキングな話も聞かれるが、それについての感想や意見を求めたところ、不要と思わない。機械による検索は現在のところ万能とはいえないので人間が必要。インターネット化は是非必要だが、高齢者は使用しにくく、また、借出して好きな場所(例えば電車の中)で読むこともできないし、心のいやし場として緑陰読書などもできない。集団としての催事(例えば大ホールでの読み聞かせ等)もできなくなる。従って司書は不要とはいえない。しかし、将来的に現行の図書館が変貌していく必要はある。機械化が進んだとしても、人とのコミュニケーションは欠くことはできない。本というものは手にとってみて本の良さがわかるものだと思う。インターネット関連が進んでも印刷物である図書の役割は別であるので、今後も図書館の役割は重要であると考え。こういうことをいう人はネット又はコンピュータを知らない方だと思う。モニターの向こう側には必ず人間がいるし、必要なのです。自力でHP(ホームページ)でも立ち上げてみればわかります。図書館とは単にデータを提供するマシンではなく、学習の空間又は安らぎの空間を提供する施設でもあります。形は変わっても図書館は無くなることはないと思う。当館は、小学生が利用者の大半を占めているので、図書館でのコミュニケーションの大切さ、居場所の提供という役割も含めて図書館や司書は必要だと考える。窓口業務として司書は、コンピュータやロボットには変えられない。人間の享受能力を超えた準備は不要。

図書館司書のサーチャーとしての能力が要求させるだろう。しかし、本というメディアはなくならないし、本にしろ収集・保存・提供という仕事は司書がやらざるを得ないのではないか。資料（図書）とお客様を結びつけるのが司書であり、求める資料に「心」を込めて届けなくてはならない。極論、情報化が進んでも試験管から生まれてくる子どもが勝手に育つということは考えられない。地域性を生かしたサービスの方法も考えられるし、公共図として自治体が運営費をかけて行う事業として今後も充実が必要。日本の図書館は十分に発達しきったとはいえない。図書館の利用体験なしで個人の情報利用力が高まり、判断や倫理の問題に個々に責任ある対応ができるか疑問。本当の読書の楽しみ、充実感がなくなるのではないか。具体的になっても一般化はしないと思うし、そうあってほしいと思う。インターネットで学習ができ、学校図書館では不要か。住民の中にはインターネットを使うことのできない人も必ず居続けるということ（病人、経済的理由で）。何よりも活字・芸術の世界など次世代に手渡すにはコンピュータなどでは本物の感動は伝わらないことから同意できない。

## 5. 貴館の今後の計画

(1) 施設の増・改築に関して、①所属自治体、または大学（短大、高専含む）では今後分館も含めて図書館の増・改築の予定はあるかについて、あると答えた図書館21%（8館）、ない68%（26館）、不明11%（4館）。

(2) 職員体制について、①今後職員の補充の予定はあるかについて、ないと答えた図書館63%（24館）、不明11%（4館）、あると答えた図書館は1館のみ。②職員の補充の予定がある場合、司書資格取得者を望むかについて、望む50%（19館）、望まないは0館。③公共図書館職員の配属は、一般には各自治体内の職員の配転、または自治体が採用する職員の中から配属されると思うが、その場合図書館側の要望（例えば司書資格取得者の要請）は受入られるかについて、受入れられる図書館26%（10館）、受入れない45%（17館）、不明16%（6館）。

④現況の図書館職員には、業務上に必要な最新情報や技術の習得が重要視されているが、貴館では職員の指導・養成を実施しているかについて、実施している図書館79% (30館)、実施していない16% (6館)、検討中5% (2館)、他に組織的にはしていないが、日常的に指導助言はしている、また、外部の講習会等にも参加するようしている。⑤実施している場合、その指導・養成はどのような方法で実施しているかについて、外部の研修会、講習会などへ派遣66% (25館)、自館独自で13% (5館)。⑥外部派遣の場合、どのような研修会・講習会かについて、図書館職員専門講座、公共図職員研修会、公共図書館視察研修、図書館運営講座、公共図書館研究集会、公共図書館視察研修、新任職員研修会等、県立図書館主催、長野県公共図書館協会主催、及び県生涯学習センター主催のいずれかの研修会・講習会に参加されている。また、上伊那公共図書館職員研修会、長野県総合教育センター・県立長野図書館実施の研修会、他館での実務研修参加もみられる。他にJLA図書館大会に参加。市町村・出版社・書店などが行う講習会などにも参加している。

## 6. 貴館への要望

信州豊南短期大学・図書館司書養成課程では、変革しつつある今日の社会情勢の中で、図書館とそこに働く司書の重要性を十分に認識し、幅広い知識と技術を習得した資質の高い司書の養成に努力している。しかし、現実には教室の中での養成が中心であり、今後は、学生に対してもっと利用者に直接対応している現場での状況を把握することも必要ではないかとか考えている。そこでお尋ねします。

(1) 貴館では図書館司書養成課程の実習生の受入れは可能かどうかについて、可能とされる図書館45% (17館)、不可24% (9館)、不明24% (9館)。可能とされる図書館の意見の中には、実習にもよるが、このような規模の所で果たしてお役に立てるか分かりません。その時の状況で考えさせていただく。短期

ならば可能。きちんと挨拶のできる人、積極的に学ぼうとする意欲ある人が望ましい。3・8月は図書館利用者が多い月であり、実習生に丁寧な指導は不可。一切無報酬（かって実習生を受入れた時、在籍校から謝礼がきた）。複数名は対応不可、地元就職を希望している者を望む。都市型の図書館のような設備ではないので、村立図書館にあった体験実習を目的として来てくれるのならばよい。須坂市に住所・実家がある者を望む。資格をとるだけでなく、図書館で働きたい、やる気のある学生を送って下さい。できるだけ村出身者、人数は1名（郡内もOK）。また、不可と答えられた中には、建て替え中であり当面は受入無理、という図書館もあった。

（2）受入可能な場合、どのような条件が必要かについて、前例がないのでそのような状況になった時考えたい。最大の条件は本当に図書館での実習を願っていること。本や人が好きで誠心誠意頑張っていること。何ともいえない、お役に立ちたいのは山々であるが、現状でも職員数が少なく、日常業務にさえ支障をきたしている現状の中で、時間的に実習生の指導をすることは困難である。業務に差し支えない限りで対応可能。自宅から通える人などがあげられている。

（3）本学の図書館司書養成課程に対して、ご意見、ご要望など求めたところ、市民講座で、短期集中で身につく講座の公開を。コンピュータを扱える者（ワード・エクセルなど含めて）、児童心理で高度なレベルの者の養成。短期間での実習は、実践に繋がるように内容的にも充実した大規模館や、先進館で受けていただくと勉強になると思う。また、公共図書館の場合は、図書館だけでなく自治体の中のひとつのサービスという視点が必要と感じるなど。

## V. 評価

68%の回収率は、調査として一応認めてただける数値と考える。

1. 県立図書館からの回答が得られず、市町村立図書館主体の調査になったが、

全体として蔵書、入館者、貸出冊数、職員数などからみて地域範囲や人口に即応した図書館の規模を保っており、サービス体制もそれに準じている。しかし、その域を越えた活発なサービス活動が行われている図書館（富士見町図、伊那市立図など）もみられる。

2. 図書館サービスの実態について、まず、資料の収集は通常その図書館を取り巻く環境に応じて収集されるが、今回の調査は特に図書・逐次刊行物以外の資料の収集に焦点を当てた。全体的に電子出版物を含めて視聴覚資料は多くの図書館で収集してきている。紙芝居の収集は意外に多く82%を越えている。資料整備・目録作業については、自館と外注双方で進めている図書館が68%を占める。そのうち68%がMARCを使用している。他に総合目録ネットワーク、OPACを使用している図書館もある。外注先は、TRCと大阪屋で76%を占める。中には地元書店組合を通じて大阪屋へ発注している図書館もある。

カウンター業務では、95%が貸出・レファレンス・読書案内業務を一緒に行っており、カウンターは別々にしているが業務は一緒（同一職員が担当）というところもある。現況は人員不足の中効率優先といった側面がみられる。

各種サービス業務として、特に多く見られるのが障害者・高齢者サービス、次いで貸出文庫、児童サービスとなっている。障害者・高齢者に対してはバリアフリー、閲覧施設などに配慮がみられる。児童サービスで室内に専門員を配置している図書館も多い。また、アウトリーチ・サービスを実施している図書館は32%を占め、高齢者・心身障害者を対象に活発なサービスが行われている状況が伺える。外国人利用者へのサービスは町立図書館でも行われており、洋書の収集が主力であるが、他に英語・ポルトガル語版の利用案内を作成しているところもある。集会・行事活動は82%の図書館で実施している。読み聞かせ、紙芝居、人形劇、影絵など一般的に行われる行事に加えて、漬物フェアや機織りフェア、腹話術、水引教室、カルタ会など郷土色を生かした種々の催しが行われている。読み聞かせ、人形劇などはボランティアによるところも多い。各

図書館の特徴あるサービスとして、例えば星の町という方針に従って星・宇宙に関する資料を収集しているところ（臼田町立図）、児童作家を顕彰する記念館に併設した図書館として、児童文学の紹介、親と子の読書運動を進めているところ（喬木村立椋鳩十記念図）、郵便局に200冊ずつの図書を置いて貸出サービスをやってもらっているところ、その他障害者用雑誌を積極的に収集しているところなど種々の特徴あるサービスがみられ非常に興味深い。また、サービス対応への職員体制であるが、現況は79%が不十分とされる。

3. 図書館協力について、国立国会図書館の図書館サービス・システムは、55%が利用している。主として図書貸出、複写サービス、レファレンス・サービスについて、件数はそれほど多くはない。なお、NACSISの利用はゼロである。図書館協力の一環である集中目録作業システムの参加については、地域図書館ネットワーク内で共同利用があるのみ。地域相互協力について何らかの形で参加している図書館は82%。種類として相互貸借、図書館相互利用、総合目録、分担収集・保存など。協力範囲や館種は、国立国会図書館、都府県立図書館19館、大学図書館1館、学校図書館10館、他2施設と広域な協力を行っている図書館（伊那市立図）から学校図書館3館との協力に至って種々雑多である。また、大学・短大図書館との協力について、資料の相互貸借があげられている。

4. 高度情報化に対応して欠かせなくなった図書館業務システムは、58%が導入している。システムは主としてNEC、富士通関連系のシステム、システム・イン・ナカゴミなどがみられる。電子出版物の利用は、主にその資料を収集している図書館でみられ、図書系のものが多い。インターネットは、47%の図書館で使用。図書館案内、電子出版物の利用、OPACのアクセスに使われている。また、県内地域図書館情報ネットワークの形成は2地域にみられる。電子図書館化が進む中、従来型図書館の存在についての意見では、従来型図書館が不要とは思わない。機械万能とはいえない、人間が必要。高齢者には不向き。図書

は便利さで優れている。図書館でのコミュニケーションは大切。図書館は単なるデータ提供マシンではない。図書館は学習・安らぎの空間を提供する施設である。一方将来的に図書館の変貌は必要。インターネットで学習できるようになるので、学校図書館は不要かなどの意見が上げられている。

5. 今後の計画について、増・改築の予定は21%の図書館にある。職員の補充予定について63%はなく、あると答えた図書館は1館のみ。50%が職員に司書資格者を望んでいる。図書館職員の採用や配転で、自治体に対して図書館側の要望が受け入れられるかについて、1/4の図書館が受け入れられるとしている。また、職員の指導・養成について、79%が実施している。実施方法は、66%が研修会、講習会への派遣。主として県立図書館、県図書館協会、県生涯学習センター主催のもの。また、地域や1機関（長野県総合教育センターなど）主催のものもある。

6. 各図書館への要望で、実習生の受入は45%が可能とされる。受入の条件や意見で、短期ならば。きちんと挨拶のできる人。積極的に学ぼうとする意欲のある人。住所・実家が当地にある者。できるだけ村出身者など。本学司書養成課程に対する要望として、コンピュータを扱える者。短期市民講座、公開講座の開催など。

総評としてごく一端ではあるが、県内の多くの公共図書館で高度情報化社会に向けての対応策が図られつつあること。また、児童・高齢者・障害者サービスに積極的に取り組み、幅広く活発な集会活動が展開されていることなどから、公共図書館が各々地域社会において「生涯学習センター」的役割を十分に生かしているといった印象を強くする。

以上、今回のアンケート調査は大変有意義なものであり、今後の図書館司書養成に役立てたく考えている。最後に調査にご協力いただいた諸図書館に衷心から謝意を述べる次第である。

(上記の記載について：百分率<%>は、四捨五入とし、数値の冒頭「約」を省略した。従って各項毎に総計では100%でないものがある。内容中、特徴や実績のある図書館について図書館名を記載させていただいた。ご了承下さいますようお願いいたします。)



(表-1) 長野県公共図書館概況 (平成12年6月末現在)

平成12年9月30日

図書館名 (順不同)	平成11年度			貸出冊数制限	貸出期日	休館日	職員数 (正・臨・司)	備考
	平成11年度末 蔵書数	入館者数	貸出冊数					
東部町図書館	78,342	26,576	126,034	335	10	21 月曜・祝日・第2日曜・月最終金・年末年始	2・5・2	特別整理休館あり
南箕輪村図書館	50,587	47,349	135,511	389	5	14 月曜・年末年始・10月1週間	5・2・4	
辰野町立辰野図書館	86,000	27,500	40,822	381	5	21 月曜・祝日・月末整・年末年始	2・1・1	
原村図書館		111,644	103,827	175	5	14 月曜・祝日・第2日曜・月最終金	2・4 (週3日勤)・2	
塩尻市立図書館	217,876	61,386	239,967	7,833	12	14 月曜・祝日・月最終木	5・9・6	入館者数→利用者数
中野市立図書館	118,200	131,500	118,652	903	5	14 月曜・祝日・月末整・年末年始・整期間	5・3・4	
白馬村図書館	約9,000	9,757	10,534	122	5	月曜・祝日・年末年始	2・1・3	
ライブラリー82	31,197	6,650		245	3	14 祝日・年末年始	4・1・1	貸出:HI2.4開始
下諏訪町立図書館	50,291	18,850	81,294	467	10	15 月曜・祝日・月最終金曜	2・2・1	
市立須坂図書館	128,957	44,813	130,796	5,418	3	14 月曜	2・5・3	
市立岡谷図書館	192,462				5	14 月曜・祝日・月最終金・年末年始・整期間	4・5・4	臨時→囑託
喬木村立椋鳩十記念図書館	48,163	15,489	47,745	487	5	14 月曜・祝日・月末	1・4・1	

図書館名 (順不同)	平成11年度末	平成11年度			貸出冊数制限	貸出期日	休館日	職員数 (正・臨・司)	備考
	蔵書数	入館者数	貸出冊数	複写件数					
軽井沢町立図書館	87,817	28,117	44,827	513	10	14	月曜・祝日	4・1・2	
阿南町立図書館	75,510	13,844	41,194	1,061	5	14	月曜	3・3・1	
白田町立図書館	32,365	32,175	48,062	87	3		月曜	1・2・1	
村立朝日村図書館	24,312	14,191	15,277	71	3	14	月曜・火曜	2・0・1	
佐久市立図書館	125,914	116,959	151,654	3,028	3	14	月曜・月最終火曜・祝日・年末年始	5・7・3	
高遠町図書館	64,942	16,402	58,264	362	ナシ	14	月曜・祝日・年末年始	1・5・1	
飯田市立中央図書館	511,823		696,979	32,685	10	14	月曜・月第4金	13・9・19	
富士見町図書館	96,000	247,000	318,000	1,400	10	14	月曜・月最終金曜・年末年始	3・4・4	複写枚数:7,000
坂城町立図書館	77,434	25,159	78,290	283	10	21	月曜・月末・整理日	2・5・3	
波田町立図書館	56,353	31,098	100,927	1,724	5	14	月曜・祝日・日曜	3・3・5	
箕輪町図書館	51,807	26,500	90,325	170	ナシ	14	月曜・祝日・月最終木曜・年末年始	2・3・1	貸出人数:25,140
中川村図書館	38,275	22,046	56,098		5	12	月曜・祝日	1・3・2	
池田町図書館	44,439	カウ ン ト・ナシ	41,129	230	3	15	月曜	1・1・1	貸出人数:10,189

図書館名 (順不同)	平成11年度末	平成11年度				貸出冊数制限	貸出期日	休館日	職員数 (正・臨・司)	備考
	蔵書数	入館者数	貸出冊数	複写件数	蔵書数					
榑川村図書館	30,207	3,859	4,831	38	3	14	月曜・祝日	2 (共に兼務) ・0・1	複写枚数:127	
市立大町図書館	53,136	33,287	123,522	257	10	21	月曜・祝日(1部)・月最終火曜・年末年始	3・4・3		
戸倉町図書館	63,699	30,893	93,353	410	5	15	月曜・祝日・月末整・曝書・年末年始	1・2・4 (嘱託2)		
青木村図書館	13,773	1,752	13,673	30	10	21	月曜・祝日・月末日	0・2・1		
山ノ内町立蟻川図書館	45,691	21,455	24,071	106	3	14	月曜・祝日・月末日・年末年始・曝書期間	0・4・1		
根羽村立図書館	7,182	7,000	7,000		2	14	土曜・日曜・祝日・年末年始	0・2・0		
伊那市立図書館	153,686	95,226	377,741	2,129	ナシ	14	月曜・他	8・7・2		
更埴市立図書館	82,136	不明	149,407	645	3	14	月曜・祝日・月末日(土・日除く)	3・7・5		
下條村立図書館	45,790		72,951	100	10	14	月曜・金曜	1・1 (嘱託)・1	貸出1回延長 (28日間)	
無記名	101,259	33,166	76,371	452	5	14	月曜	3・3・2		
無記名	73,306	31,868	71,384		2	15	月曜	3・5・4		
無記名	61,871	不明	63,463	86	無制限	14	月曜・第1水曜・年末年始	1・3・1	職員:他館長兼 務1名	
無記名	143,396		151,465		5	14	月曜・祝日・蔵書整理日	5・3・5	貸出人数: 151,465	

(別紙1)

アンケート調査依頼館(長野県内公共図書館)

(順不同)

図書館名	図書館名	図書館名
県立長野図書館	浅科村立図書館	中川村図書館
飯田市立中央図書館	村立朝日村図書館	楢川村図書館
市立飯山図書館	阿南町立図書館	根羽村立図書館
伊那市立図書館	飯島町図書館	白馬村図書館
上田市立図書館	池田町図書館	波田町立図書館
市立大町図書館	臼田町立図書館	原村図書館
市立岡谷図書館	小布施町立図書館	富士見町図書館
更埴市立図書館	軽井沢町立図書館	穂高町立図書館
駒ヶ根市立図書館	川上村文化センター図書館	町立松川町図書館
市立小諸図書館	坂城町立図書館	丸子町立金子図書館
佐久市立図書館	下條村立図書館	南箕輪村図書館
塩尻市立図書館	下諏訪町立図書館	箕輪町図書館
市立須坂図書館	喬木村立椋鳩十記念図書館	宮田村図書館
諏訪市図書館	高遠町図書館	望月町ふる里ふれあい図書館
茅野市図書館	辰野町立辰野図書館	山ノ内町立蟻川図書館
中野市図書館	天龍村図書館	高森町立図書館
長野市立長野図書館	東部町図書館	(助)上伊那図書館
松本市中央図書館	戸倉町図書館	(助)ライブラリー82
青木村図書館	豊科町立図書館	

(別紙2)

## 図書館サービスに関するアンケート調査

(下記の各質問項目で該当する番号に○印を、カッコ内に数値または必要事項等をご記入下さい)

### 1. 館種、サービス体制について

(1) 貴館は下記のいずれに該当しますか。

1. 県立図書館      2. 市立図書館      3. 町村図書館

(2) 分館または自動車図書館を設置して (1. いる      2. いない)。

設置館数 (台数) : 分館 (      館)、自動車図書館 (      台)

(3) 下記事項について (分館も含めて) ご記入ください。

昨年度末現在の蔵書数 (                  冊)、

昨年度の入館者数 (      人)、貸出数 (      冊)、複写件数 (      件)

貸出の冊数制限 (      冊)、貸出期日 (最大      日)、

休館日 (                  )

職員数 (正                  人、臨時                  人、内司書資格取得者                  人)

### 2. 図書館サービスの実態について

(1) 収集資料は図書、逐次刊行物など紙資料の他にどのような資料を収集していますか。

1. マイクロ資料      2. 点字資料

3. 録音・録画資料 (テープ、ビデオ、CD)      4. 映画フィルム

5. 電子出版物 (CD-ROM等)      6. 紙芝居      7. 絵画

8. その他 (                  )

(2) 資料の整備・目録作業について、貴館ではどのような方法で進めていますか。

1. すべて自館で      2. すべて外注      3. 自館と外注の両方で

(3) 目録作業を貴館で行なう場合、下記のいずれを利用していますか。

1. MARC (機械可読目録)      2. OPAC (オンライン目録)  
3. 総合目録ネットワーク      4. いずれも利用していない

①MARCを利用している場合、どのようなMARCですか。

1. J-MARC      2. J-BISC      3. TRCマーク  
4. ニッパン・マーク      5. その他 (    )

②「OPAC」または「総合目録ネットワーク」を利用している場合、支障がなければそのシステム名をご記入下さい。

(4) 資料の整備・目録作業を外注している場合、どのような機関へ依頼していますか。

1. 書店      2. 図書館流通センター (TRC)      3. 日本出版販売 (株)  
4. その他 (    )

(5) カウンター業務は、貴館ではどのような方法で行なっていますか。

①貸出業務、レファレンス業務、読書案内を各々 (1. 分離      2. 一緒)。

②その他 (    )。

(6) 各種サービスについて

①貸出文庫(母親文庫、巡回文庫等)を実施して (1. いる      2. いない)。

②児童サービスで、部屋を独自に設置して (1. いる      2. いない)。

②-1 児童サービス員を置いて (1. いる      2. いない)。

③障害者・高齢者サービスを実施して (1. いる      2. いない)。

- ③-1 バリアフリーや閲覧設備に配慮して（1. いる 2. いない）。
- ③-2 視聴覚資料室を設置して（1. いる 2. いない）。
- ③-3 設置している場合その室名は（ ）
- ④アウトリーチ・サービス（貸出・レファレンスなどの出張サービス）を実施して（1. いる 2. いない）。
- ④-1 実施している場合その対象者は、  
（1. 高齢者 2. 心身障害者 3. 入院患者  
4. 矯正施設入所者 5. その他： ）。
- ⑤外国人利用者へのサービスを実施して（1. いる 2. いない）。
- ⑤-1 実施している場合、そのサービス方法は、  
（1. 洋書・資料などの収集 2. 特別室など設置  
3. その他： ）。
- ⑥集会・行事活動について実施して（1. いる 2. いない）。
- ⑥-1 実施している場合そのサービスの種類は何ですか(複数可能)。  
1. 読み聞かせ 2. ストリーテリング 3. 紙芝居  
4. ブックトーク 5. 映画上映会 6. 音楽鑑賞会  
7. 人形劇 8. その他（ ）。
- (7) 利用者へのサービスの対応は現在の職員体制で  
（1. 十分 2. 不十分）。
- (8) ボランティアを適用して（1. いる 2. いない）。
- (9) 貴館で特徴とするサービスは何ですか、枠内にご記入下さい。

### 3. 図書館協力について

(1) 貴館では国立国会図書館の図書館サービス・システムを利用していますか。 1. 利用している 2. いない

①利用している場合どのようなサービスですか。

1. 図書貸出制度
2. 複写サービス
3. レファレンス・サービス

②利用している場合、支障がなければ昨年度の各々の利用件数をご記入下さい。 1. 2. 3.

(2) 国立情報学研究所(前学術情報センター)のNACSISシステムに参加していますか。

1. 参加している
2. いない

①参加している場合、どのようなシステムを利用していますか。

1. NACSIS-CAT
2. 同-IR
3. 同-ILL
4. 同-ELS

②利用している場合、支障がなければ昨年度の各々の利用件数をご記入下さい。 1. 2.

- 3.
- 4.

(3) 貴館は集中目録作業システム (NACSIS-CATを除く) に参加していますか。 1. 参加している 2. いない

①参加している場合、どのようなシステムに参加してしていますか。

1. OCLC (紀伊国屋)
2. ATLAS (丸善)
3. その他 ( )

(4) 貴館では他館 (大学・学校図書館も含めて) との地域相互協力を実施していますか。

1. 実施している
2. いない



①実施している場合、それはどのような種類の協力ですか。

1. 分担収集
2. 分担保存
3. 相互貸借
4. 総合目録
5. 図書館相互利用
6. その他 ( )

②協力館種と館数をご記入下さい。( )

③大学・短大図書館との協力について何かご要望がございましたらご記入下さい。

#### 4. 高度情報化社会での図書館の対応

##### (1) コンピュータによる図書館業務システムについて

①貴館においてネットワーク系を除く図書館業務システムを導入していますか。

1. 導入している
2. いない

②導入している場合、どのようなシステムですか。

1. 総合システム
2. 閲覧貸出システム
3. 検索システム
4. 目録編纂システム
5. その他 ( )

③支障なければシステムの名称、製造者名をご記入下さい。

##### (2) 電子出版物について

①電子出版物を利用して (1. いる 2. いない)。

②利用している場合、媒体はどのようなものですか。

1. パッケージ系
2. オンライン系
3. 両方

(注) パッケージ系とはCD-ROMなどを、オンライン系とは通信回線を媒体とするものです。

③パッケージ系の場合、どのような資料ですか。

1. 図書 (例えば辞書・名簿等)
2. 雑誌・新聞
3. 視聴覚資料
4. その他 ( )

④オンライン系の場合、どのようなデータベースですかご記入下さい。

⑤電子出版物の利用についてご意見・ご感想がありましたらご記入下さい。

(3) 貴館ではインターネットを利用して (1. いる 2. いない)。

①利用している場合、どのような業務に利用していますか。

1. 図書館案内 2. OPACのアクセス

3. 電子出版物の利用 4. その他 ( )

②インターネット上ではどのようなホームページ、またはデータベースを使用していますか、支障なければURL (ホームページのアドレス)、またはデータベース名をご記入下さい。

(4) インターネットを利用するサービスで、ご感想などありましたらご記入下さい。

(5) 最近、電子図書館の構想が具体的に進められ、利用者がインターネットと共に直接利用できることで、利用者の中には近い将来図書館や司書は不要だといったショッキングな話も聞かれますが、このことについて貴館ではどのように考えますかご意見がありましたらご記入下さい。

## 5. 貴館の今後の計画

(1) 施設の増・改築について

①貴館の所属する自治体、または大学 (短大、高専含む) では今後分館も含めて図書館の増・改築の予定はありますか

(1. ある 2. ない 3. 不明)。

## (2) 職員体制について

①今後貴館における職員の補充の予定は

(1. ある 2. ない 3. 不明)。

②補充予定の場合、司書資格取得者を(1. 望む 2. 望まない)。

③公共図書館職員の配属は、一般には各自治体内の職員の配転、または自治体が採用する職員の中から配属されると思いますが、その場合図書館側の要望(例えば司書資格取得者の要請)は受入られますか。

1. 受入れられる 2. 受入れない

④現況の図書館職員には、業務上に必要な最新情報や技術の習得が重要視されてきておりますが、貴館では職員の指導・養成を実施しておりますか。 1. 実施している 2. いない 3. 検討中

⑤実施している場合、その指導・養成はどのような方法で実施していますか。 1. 自館独自で 2. 外部の研修会、講習会などへ派遣

⑥外部派遣の場合、どのような研修会、講習会ですか、名称をご記入下さい。

## 6. 貴館への要望

信州豊南短期大学・図書館司書課程では、変革しつつある今日の社会情勢の中で、図書館とそこに働く司書の重要性を十分に認識し、幅広い知識と技術を習得した資質の高い司書の養成に努力しております。しかし現実には教室の中での養成が中心であり、今後は、学生に対してもっと利用者に直接対応している現場での状況を把握することも必要ではないかとか考えております。そこでお尋ねさせていただきますが、

(1) 貴館では図書館司書養成課程の実習生の受入れは可能でしょうか。

1. 可能 2. 不可 3. 不明

(2) 可能な場合、どのような条件が必要でしょうか。ご感想などを含めご記入いただければ幸いです。

(3) また、本学の図書館司書養成課程に対して、ご意見、ご要望などありましたら忌憚のないご意見をご記入いただければ幸いに存じます。

差し支えなければ下記に貴館の名称等ご記入下さい。迷惑をおかけするようなことはいたしません。

貴館の名称	〒	住 所	Tel